

4 主な施設の状況

(8) 医療施設（大分類）

1) 医療施設（中分類）

① 医療施設の概要

夜間・休日急病センターは、市民及び近隣市町村住民の夜間・休日における初期救急患者の診療を行い、心身共に健康で質の高い生活を送ることができる健康保持と、医療及び公衆衛生の向上を目的に、苫小牧市と苫小牧市医師会の出資により昭和53年に保健センターに併設しています。

なお、平成21年に保健センター施設から隣接地へ建替し、独立した施設で機能の充実を図り運営しています。



図表 3-185 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※1 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
夜間・休日急病センター	苫小牧市旭町2丁目9番2号	平成21年	607	—	—	—	—

窓口機能※1：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。
 ◆「出張所」と「取扱所」で取扱う事務内容が異なりますので注意が必要です。

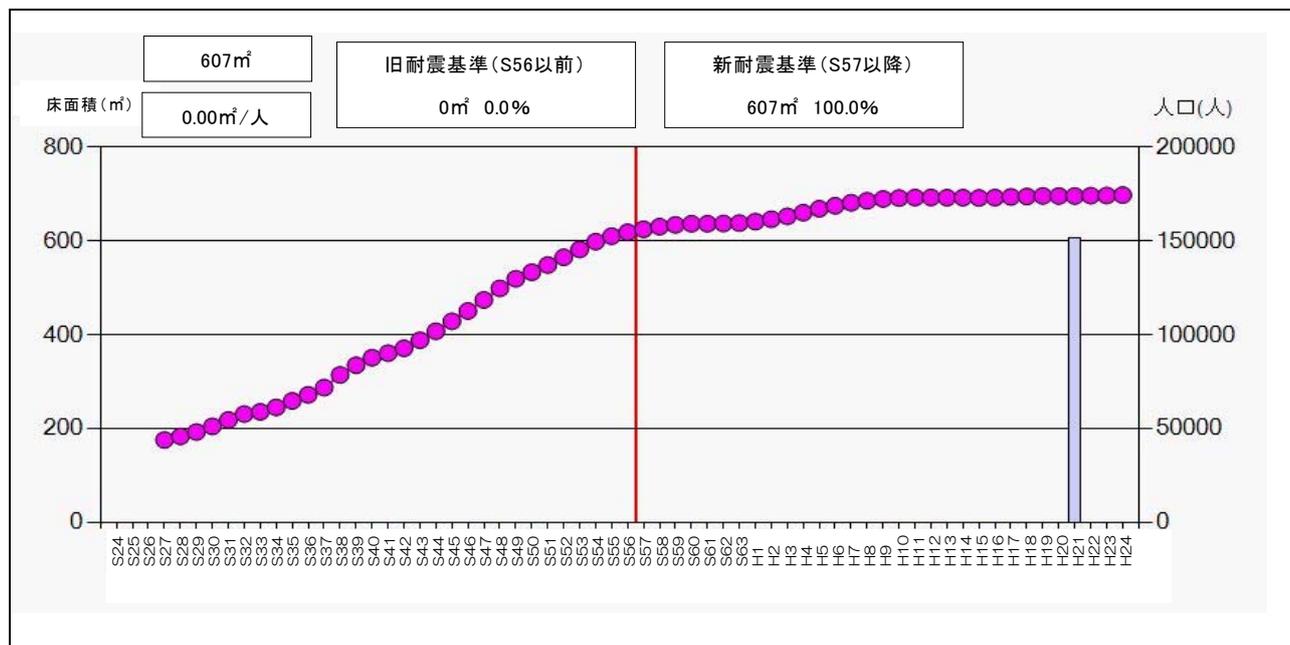
図表 3-186 施設配置図



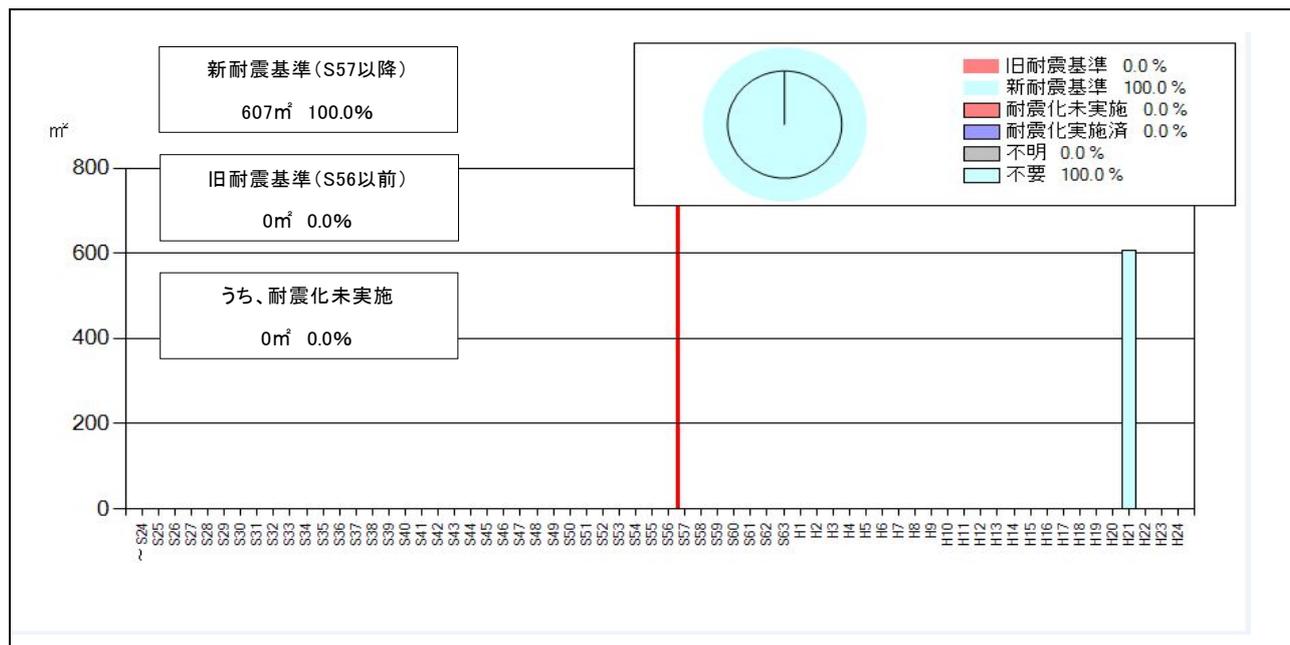
② 建設年度別整備状況

夜間・休日急病センターは、平成21年度に保健センターの隣接地に新築移転し独立した施設で床面積は600㎡です。

図表 3-187 建設年度別整備状況



図表 3-188 耐震化状況



③ 施設総合評価

夜間・休日急病センターは、津波浸水予想エリア外に立地していません。

また、避難所等に指定されていませんが、災害発生時には救護活動などについて検討が必要となります。

なお、非常電源設備は平成26年度に整備予定です。

夜間・休日急病センターは、平成21年に移転新築した施設で老朽化もほとんど見られません。

図表 3-189 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の有無 避難所等	救護物資 補完施設	津波浸水予想 エリア外	建物階数	耐震(判定 診断)	非常電源設備	入浴設備
夜間・休日急病センター	平成21年	3	607	×	×	×	1	A	×	○

凡例：●＝一時避難所、■＝災害対策支那設置施設、○＝該当施設、×＝該当なし。

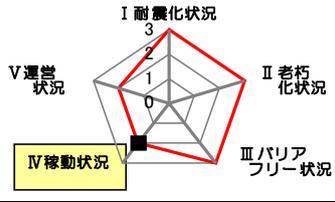
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-190 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価 パターン
夜間・休日急病センター	H21	3	-	○	○	○	○	○	3	3	3	2	2	D

バリアフリー記号：○＝対応、×＝未対応、－＝不要・該当なし、

図表 3-191 施設総合評価パターン図

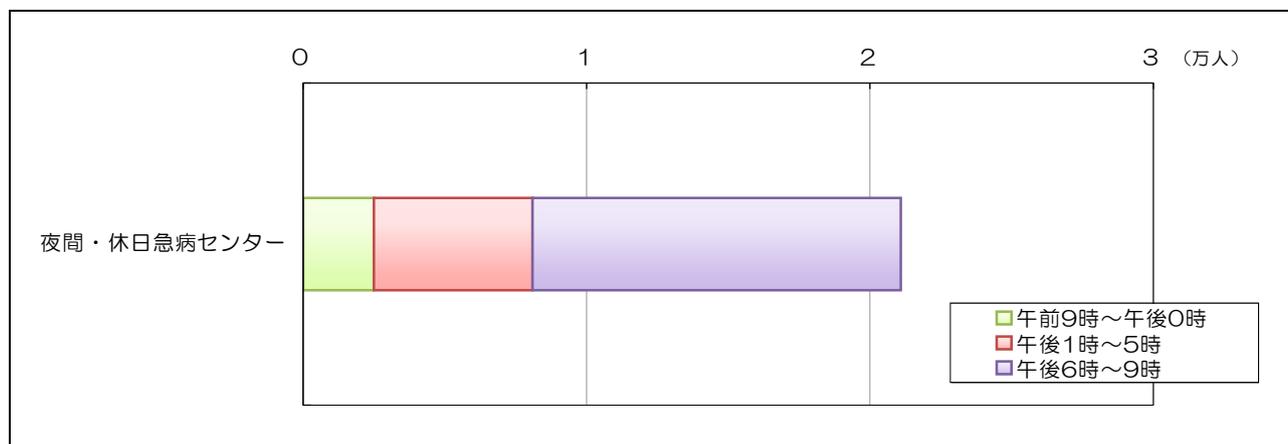
評 価	パターンD 稼動状況
	・稼動率が低下している ⇒稼動率の改善が必要な施設
該 当 施 設	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_4</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">振分基準 パターンA~C以外 でIV=2の施設</div> </div> 
	・夜間・休日急病センター
コ メ ン ト	・運営状況については、保健センターも含まれます。

④ 施設の利用状況

夜間・休日急病センターの年間利用者数は、2万1千人で1日に58人が利用していることとなります。

また、旧施設と比較して利用者は、ほぼ倍増しており一次・二次医療の機能分担が図られています。

図表 3-192 施設時間帯別年間利用者数



⑤ 運営状況

夜間・休日急病センターの平成24年度維持管理費は、保健センターと合わせて7億8千万円で、利用者一人当りの維持管理費は9千円となっています。

図表 3-193 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
夜間休日急病センター	607	365	21,095	778,968	9,054	4,466
保健センター(健診部門)	2,245	244	64,937			
合計	2,852		86,032			

⑥ 検討の視点

- ・平成21年度に独立した施設として設置しています。
- ・床面積は、600㎡です。
- ・津波浸水予想エリア外に立地していません。
- ・避難所等に指定されていません。
- ・非常電源設備は平成26年度に整備予定です。

4 主な施設の状況

(9) 行政系施設（大分類）

1) 庁舎等（中分類）

① 庁舎等の概要

市役所本庁舎は、本市の行政事務を行う場所で、昭和26年6月8日に苫小牧市旭町4丁目5番6号に移転新築しています。その後、昭和45年と昭和58年の2度にわたり現在地で増改築を行っています。

また、市役所第2庁舎は、法務合同庁舎として昭和47年に建設された建物を譲り受けて改修した後の平成20年6月から教育委員会が使用しています。



市役所第2庁舎



市役所本庁舎

図表 3-194 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口機能	貸室施設	図書施設	体育施設
市役所本庁舎	苫小牧市旭町4丁目5番6号	昭和58年	23,301	○	-	-	-
市役所第2庁舎	苫小牧市旭町4丁目4番9号	昭和47年	1,311	○	-	-	-

図表 3-195 施設配置図



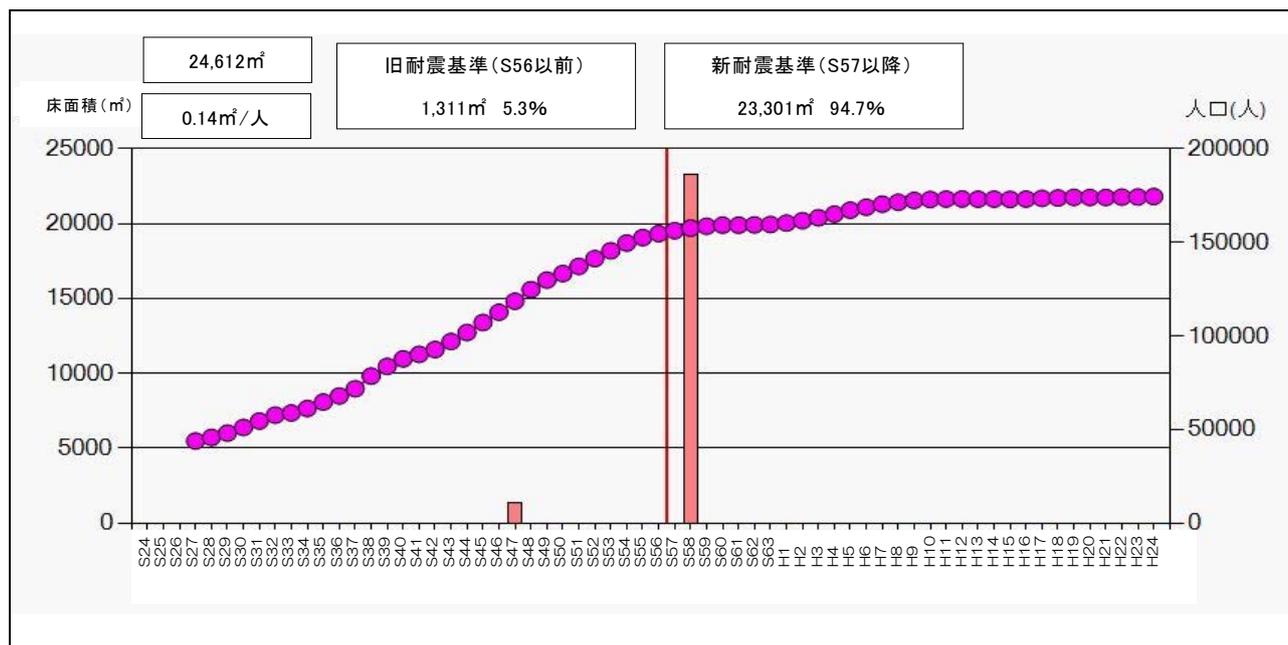
② 建設年度別整備状況

本庁舎は、昭和45年に3階建の北庁舎を新築し、続いて昭和58年に12階建の南庁舎を新築すると同時に昭和26年建設の施設を解体し現在の状況となっています。

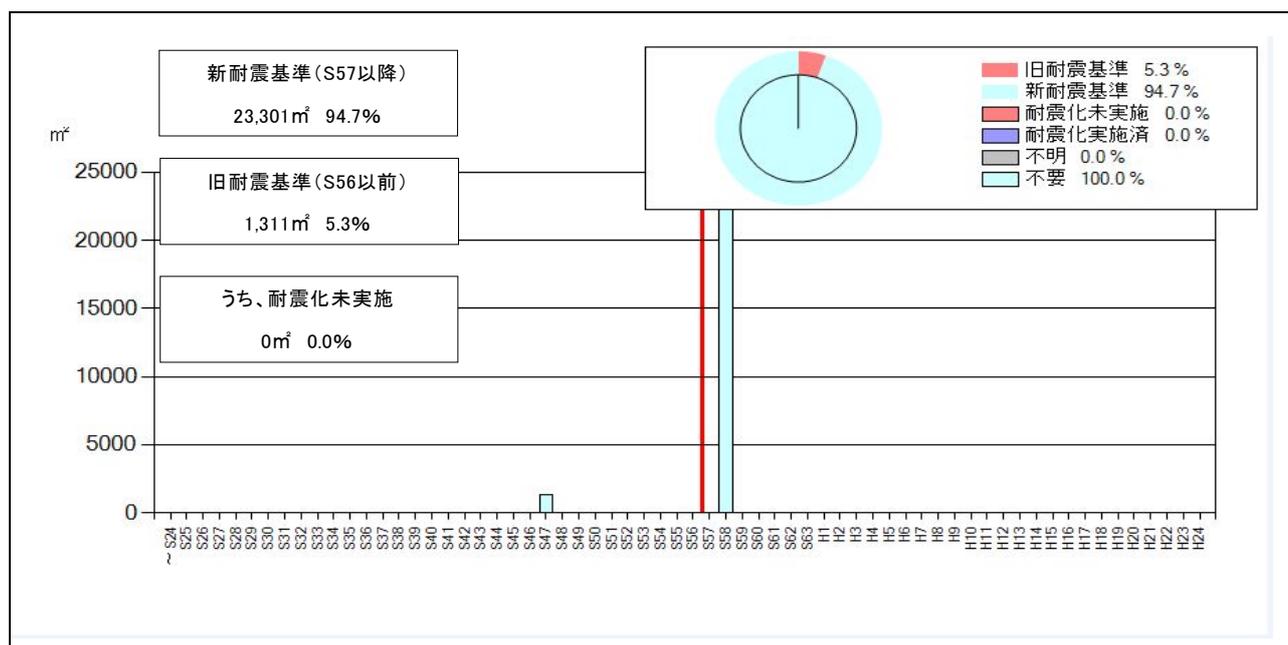
また、本庁舎の床面積は、北庁舎と南庁舎を合せ2万3千㎡で、第2庁舎は1千300㎡となっています。

なお、北庁舎と第2庁舎は、旧耐震基準の施設ですが、耐震診断を行った結果は、いずれも「A判定」となっています。

図表 3-196 建設年度別整備状況



図表 3-197 耐震化状況



③ 施設総合評価

庁舎等施設は、いずれも津波浸水予想エリア外に立地していません。

本庁舎は、一時避難所となっており、非常電源設備は備わっていますが入浴設備はありません。

なお、災害対策本部の設置施設であることから、あらゆる災害を想定した設備の充実が望めます。

また、市役所第2庁舎は、避難所等に指定されておらず、非常電源設備も入浴設備も備わっていません。

本庁舎の北庁舎部分は築40年以上が経過し、南庁舎は築30年を迎え、第2庁舎についても平成19年に内装、間仕切りの改修を行っておりますが、築40年が経過し老朽化が進んでいます。

多くの市民が利用する施設であり、耐震診断の判定結果にかかわらず、老朽化対策やバリアフリー設備の充実など、市民の安全と安心に考慮した整備計画が望めます。

図表 3-198 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の避難所等有無	救済補完施設 救済物資	津波浸水予想 エリア外	建物階数	耐震(判定) 診断	非常電源設備	入浴設備
市役所本庁舎	昭和58年	29	23,301	●	×	×	12	A	○	×
市役所第2庁舎	昭和47年	40	1,311	×	×	×	2	A	×	×

凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-199 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼動状況	V 運営状況	総合評価 パターン
市役所本庁舎	S58	29	○	○	○	○	○	○	3	2	3	-	-	B
市役所第2庁舎	S47	40	×	○	○	○	○	○	3	3	3	-	-	-

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- =不要・該当なし、

図表 3-200 施設総合評価パターン図

評 価	パターンB 今後 老朽化	
	・老朽化が進んでいる ⇒今後、稼働率の改善が必要な施設	
備	優先_2 振分基準 パターンA以外 でⅡ=2施設	優先_4 振分基準 パターンA~C以外 でⅣ=2の施設
該 当 施 設	・市役所本庁舎（北庁舎含む）	・市役所第2庁舎
コ メ ン ト	・南庁舎は築30年を迎え、北庁舎は築40年を超えていることから、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。	・第2庁舎は平成19年に内装間仕切の改修工事を行っているが、築40年を経過しており、車椅子対応エレベータが設置されていないことも含めた老朽化対策についての検討が必要と思われます。

④ 施設の利用状況

市役所本庁舎の施設の利用状況は、住民課の各種証明書交付件数や届出数を参考にすると平成24年度は、証明交付件数が13万7千件、届出件数が3万9千件で合計17万6千件となっています。

図表 3-201 各種証明証及び届出書取扱状況

本庁舎 住民課	証明書交付					届出			合計
	印鑑証明	住民票	戸籍	その他	計	戸籍	住民移動	計	
件数	31,396	62,524	26,451	16,537	136,908	9,195	29,859	39,054	175,962

⑤ 運営状況

市役所本庁舎の住民課窓口業務の職員配置状況は、市職員 27 人と嘱託職員 4 人の合計 31 人で運営しています。

図表 3-202 窓口職員配置状況

本庁舎・住民課	市職員	嘱託職員	計
人数	27	4	31

⑥ 検討の視点

- ・ 窓口業務は運営コストに影響しますが、市民サービスの利便性と効率化が望まれます。
- ・ 証明取扱所を含む庁舎等は 8 ヶ所に配置され、市民が利用し易いよう考慮されていますが、今後はインターネットなど電子媒体等を利用できる環境作りが望まれます。
- ・ 北庁舎及び第 2 庁舎は、いずれも A 判定の耐震診断ですが、既に大規模改修の時期を超えており老朽化が進んでいることから、計画的な対応が必要となっています。
- ・ 基幹施設となる公共施設は、バリアフリー設備の充実や一時避難所として市民の安全安心を考慮した改修整備計画が望まれます。
- ・ 本庁舎は、津波浸水予想エリア外に立地していませんが、あらゆる災害時には「災害対策本部」が設置される施設です。
- ・ 本庁舎には、非常電源設備が備えられていますが、入浴設備はありません。

4 主な施設の状況

(9) 行政系施設（大分類）

2) 消防施設（中分類）

① 消防施設の概要

本市の消防の歴史は、明治27年5月公設消防組として創設し、幾多の変遷を重ね、昭和23年には消防組織法の制定により警察行政から分離独立し、消防本部、消防署、消防団の3機関をもって自治体消防となっています。

現在の苫小牧市消防本部の機構は、1本部1署5出張所、1団本部12分団からなり、火災や各種災害から苫小牧市民を守り、火災ゼロを目指すとともに災害に強い街づくりのため各地区に消防施設を設置しています。

図表 3-203 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口 ^{※1} 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
消防署	苫小牧市末広町3丁目9番30号	昭和57年	1,783	—	—	—	—
消防署住吉出張所	苫小牧市住吉町2丁目6番2号	平成4年	920	—	—	—	—
消防署日新出張所	苫小牧市日新町4丁目2番1号	昭和54年	682	—	—	—	—
消防署錦岡出張所	苫小牧市青雲町1丁目23番12号	平成21年	1,063	—	—	—	—
消防署沼ノ端出張所	苫小牧市字沼ノ端42番地の12	昭和58年	984	—	—	—	—
消防署新富出張所	苫小牧市新富町1丁目3番1号	昭和60年	998	—	—	—	—
勇払分団詰所	苫小牧市字勇払27番地の1	平成18年	156	—	—	—	—
植苗分団詰所	苫小牧市字植苗40番地の95	平成17年	156	—	—	—	—

窓口機能^{※1}：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-204 施設配置図



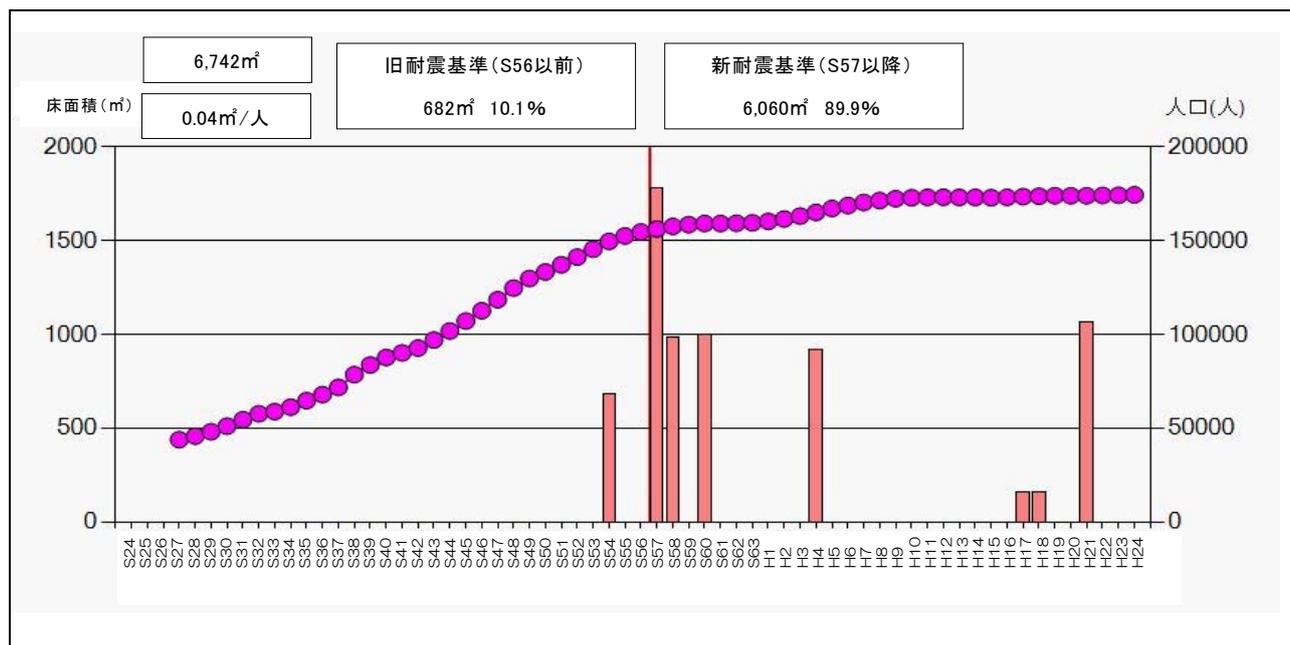
② 建設年度別整備状況

消防施設の床面積は合計 7 千㎡です。

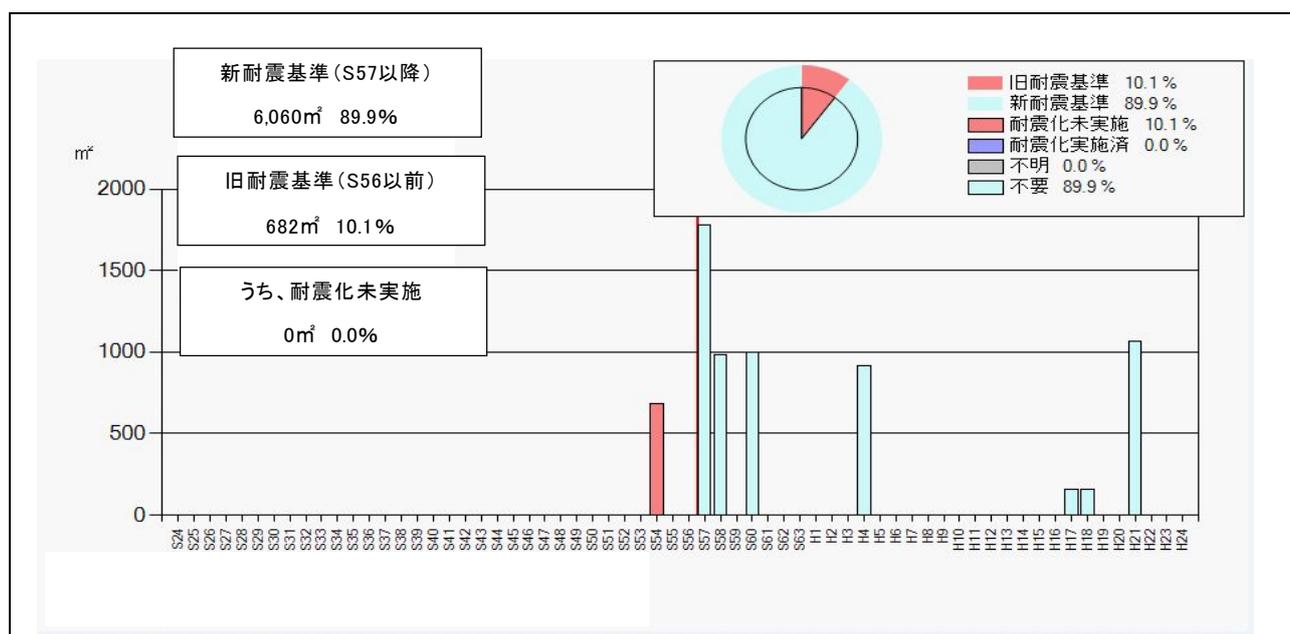
そのうち、旧耐震基準の建物は 1 施設 700 ㎡（10%）、新耐震基準の建物は 7 施設 6 千㎡（90%）となっています。

なお、消防署（末広町）は、平成 27 年度完成に向け、東部地区の新開町へ移転建替の作業を進めています。

図表 3-205 建設年度別整備状況



図表 3-206 耐震化状況



③ 施設総合評価

消防署錦岡出張所、消防署新富出張所及び勇払分団詰所を除く他の施設は津波浸水予想エリア外に立地しています。

分団詰所を除く消防署及び各消防出張所は、非常電源設備及び入浴設備が完備されています。

また、消防施設のうち、消防署は築30年で老朽化が進んでいることから、平成27年度に建替移転することとなっています。

日新出張所は、耐震診断結果B判定であるが、築30年を超え老朽化とともに耐震にも不安があり、早急な対策が望まれます。

住吉・沼ノ端・新富の3出張所は、それぞれ築20年が経過しており計画的な対策が必要となっています。

錦岡出張所は、新しい施設でバリアフリー設備も整備されています。

これまでの消防施設は、一般市民が頻繁に利用する施設でないことから、高齢者や障がい者に配慮した構造となっていませんでした。

しかし、近年は人に優しいまちづくり推進のため快適かつ安全な公共施設の整備を図ることから平成21年に改築した錦岡出張所は、バリアフリー化を進め高齢者や障がい者に配慮した施設となっています。

なお、勇払・植苗分団詰所は、地域住民による地域防災の拠点施設で地域特性があることから評価の対象外としています。

図表 3-207 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の有無	救援補完施設	津波エリア外	建物階数	耐震(判定)	非常電源設備	入浴設備
消防署	昭和57年	30	1,783	×	×	○	3	A	○	○
消防署住吉出張所	平成4年	20	920	×	×	○	2	A	○	○
消防署日新出張所	昭和54年	33	682	×	×	○	5	B	○	○
消防署錦岡出張所	平成21年	3	1,063	×	×	×	2	A	○	○
消防署沼ノ端出張所	昭和58年	29	984	×	×	○	2	A	○	○
消防署新富出張所	昭和60年	27	998	×	×	×	2	A	○	○
勇払分団詰所	平成18年	6	156	×	×	×	1	A	×	×
植苗分団詰所	平成17年	7	156	×	×	○	1	A	×	×

凡例：●＝一時避難所、■＝災害対策支部設置施設、○＝該当施設、×＝該当なし。
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-208 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
消防署	S57	30	×	×	×	×	×	×	3	2	1	-	-	C
消防署住吉出張所	H4	20	×	×	×	×	×	×	3	2	1	-	-	C
消防署日新出張所	S54	33	×	×	×	×	×	×	2	2	1	-	-	C
消防署錦岡出張所	H21	3	×	○	○	×	○	○	3	3	2	-	-	C
消防署沼ノ端出張所	S58	29	×	○	○	×	×	×	3	2	2	-	-	B
消防署新富出張所	S60	27	×	×	×	×	×	×	3	3	1	-	-	C
勇払分団詰所	H18	6	分団のため、評価対象外											
植苗分団詰所	H17	7	分団のため、評価対象外											

バリアフリー記号 : ○=対応、 ×=未対応、 -=不要・該当なし、

図表 3-209 施設総合評価パターン図

評価	パターンB 今後 老朽化	パターンC バリアフリー	パターンC バリアフリー	パターンC バリアフリー
	<p>・老朽化が進んでいる ⇒今後、老朽化対策が必要な施設</p> <p>優先_2</p> <p>振分基準 パターンA以外 でII=2施設</p>	<p>・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設</p> <p>優先_3</p> <p>振分基準 パターンA~B以外 でIII=1施設</p>	<p>・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設</p> <p>優先_3</p> <p>振分基準 パターンA~B以外 でIII=1施設</p>	<p>・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設</p> <p>優先_3</p> <p>振分基準 パターンA~B以外 でIII=1の施設</p>
該当施設	・消防署沼ノ端出張所	・消防署新富出張所	・消防署	・消防署住吉出張所
コメント	・築30年近くを経過しており、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。	・バリアフリー化が不十分な部分について整備が望まれます。	・築30年を経過しており、バリアフリー化とともに、老朽化対策も含めた大規模改修が望まれます。なお、平成27年度には建替（移転）予定となっています。	・築20年を経過しており、バリアフリー化とともに、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。

評価	パターンC バリアフリー	パターンC バリアフリー
	・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設	・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設
価	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_3</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">振分基準 パターンA～B以外 でⅢ＝1施設</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_3</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">振分基準 パターンA～B以外 でⅢ＝2施設</div>
	該当施設	・消防署日新出張所
コメント	・築30年を超えており、バリアフリー化とともに、老朽化対策も含めた大規模改修が望まれます。	・バリアフリー化が不十分な部分について整備が望まれます。

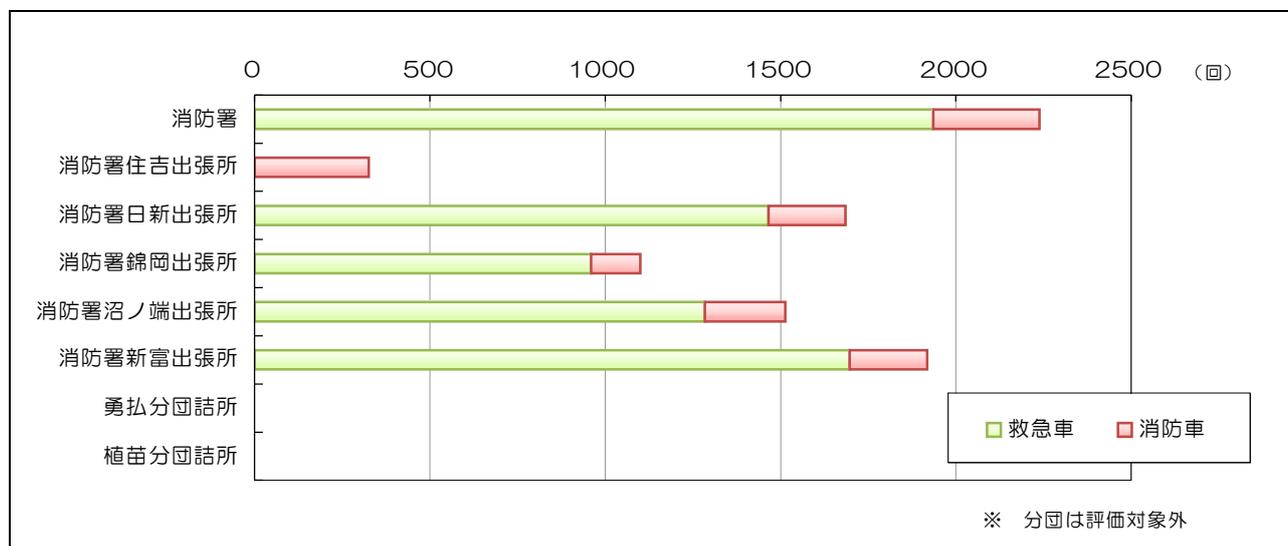
④ 施設の利用状況

消防署及び各消防出張所の出動回数は、平成24年度合計で9千回となっています。

各出張所の出動回数は、消防署が2千200回、続いて新富消防出張所が1千900回となっています。

年間の全署出動回数を平均すると、消防車か救急車が苫小牧市内のどこかに毎日24回出動していることとなります。

図表 3-210 施設年間出動回数



⑤ 運営状況

消防署及び各消防出張所の平成24年度維持管理費は、14億7千万円で、出動1回当りの平均維持管理費は、17万円となっています。

図表 3-211 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	出動回数 (回)	維持管理費 (千円)	出動1回当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
消防署	1,783	365	2,238	552,165	246,723	3,165
消防署住吉出張所	920	365	325	106,967	329,130	613
消防署日新出張所	682	365	1,685	178,246	105,784	1,022
消防署錦岡出張所	1,063	365	1,100	191,902	174,456	1,100
消防署沼ノ端出張所	984	365	1,513	218,059	144,123	1,250
消防署新富出張所	998	365	1,918	218,384	113,860	1,252
勇払分団詰所	156	365	—	195	—	—
植苗分団詰所	156	365	—	155	—	—
合計	6,742	—	8,779	1,466,073	—	—

⑥ 検討の視点

- ・消防職員は消防団員と連携して、火災や各種災害から苫小牧市民を守っています。
- ・火災ゼロを目指し災害に強い街づくりに努めています。
- ・日新消防出張所は、旧耐震基準の施設で早急な対策が望まれます。
- ・消防署錦岡出張所、消防署新富出張所及び勇払分団詰所を除く他の施設は津波浸水予想エリア外に立地しています。
- ・全ての消防施設（分団詰所を除く）は、非常電源設備及び入浴設備を完備しています。
- ・消防署は、最新のシステムに対応するための建替計画を進めています。

4 主な施設の状況

(9) 行政系施設（大分類）

3) その他行政系施設（中分類）

① その他行政系施設の概要

環境保全課事務所は、環境の様々な問題に対応し公害の未然防止に取り組み、環境への負荷の少ない社会の構築へ向け監視・指導などを行っています。

沼ノ端清掃事務所は、清掃業務の計画、廃棄物の収集及び処分、不法投棄の取締り及び指導により、生活環境の向上と健康で快適な市民生活を確保する事業を行っています。

糸井道路管理事務所は、道路・橋梁・河川等の状況把握のためパトロールを行い通行の安全や施設の保全に努めています。

交通安全センターは、交通安全意識の高揚と知識の向上を図り地域の交通安全を推進するため講習会・研修会などを開催しています。

図表 3-212 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※ ¹ 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
環境保全課事務所	苫小牧市旭町2丁目9番12号	昭和55年	511	—	—	—	—
沼ノ端清掃事務所	苫小牧市字沼ノ端2番地の25	平成11年	1,107	—	—	—	—
糸井道路管理事務所	苫小牧市字糸井402番地の4	昭和47年	608	—	—	—	—
交通安全センター	苫小牧市旭町3丁目5番12号	昭和58年	393	—	○	—	—

窓口機能※¹：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-213 施設配置図

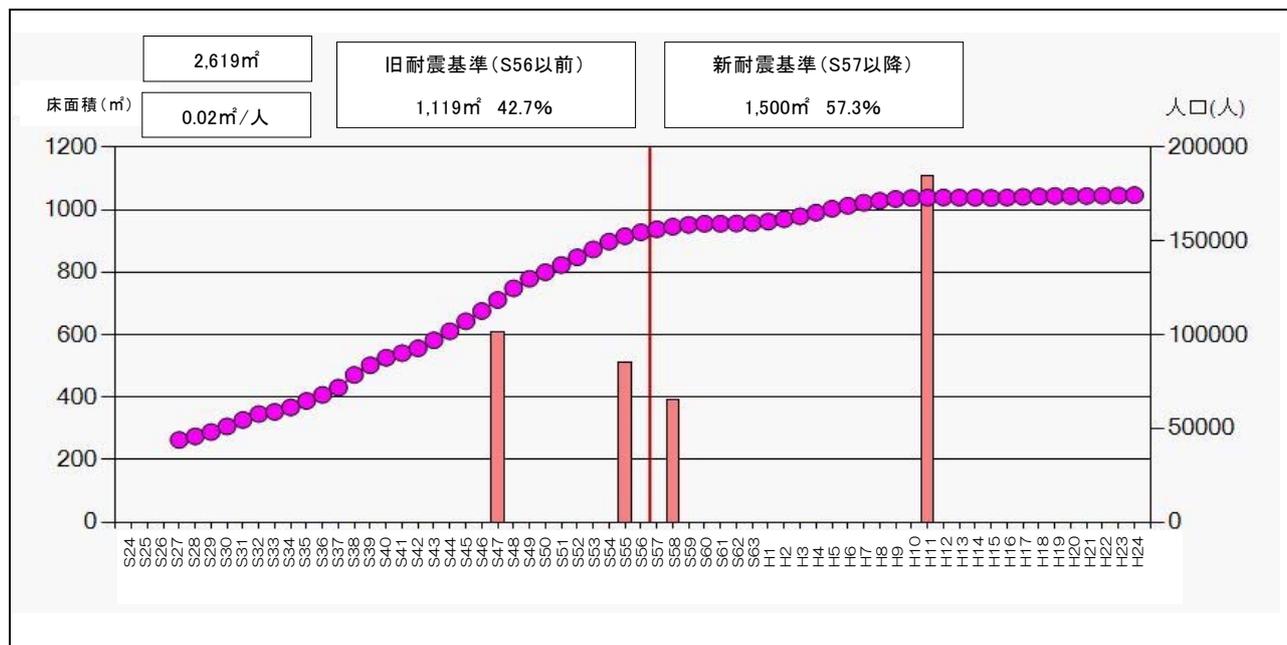


② 建設年度別整備状況

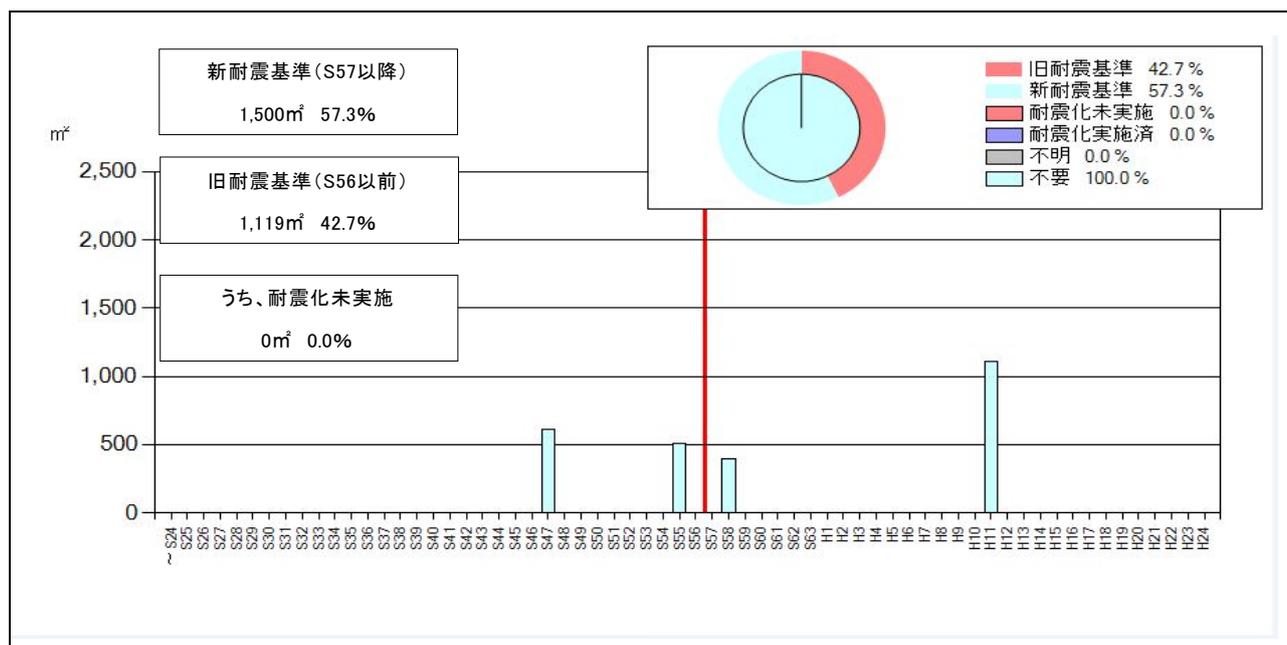
その他行政系施設4施設の合計床面積は3千㎡です。

そのうち、旧耐震基準の建物は2施設1千100㎡、新耐震基準の建物は2施設1千500㎡となっています。

図表 3-214 建設年度別整備状況



図表 3-215 耐震化状況



③ 施設総合評価

その他行政系施設の沼ノ端清掃事務所、糸井道路管理事務所は、津波浸水予想エリア外に立地しています。

交通安全センターは、一般市民が直接利用する施設ですが、津波浸水予想エリア外に立地してはならず築29年を経過していることから老朽化対策と併せて、バリアフリー設備の整備が望まれます。

他の3施設は、一般市民の利用が少ないが10年から40年が経過し、老朽化の対応とともにバリアフリーの検討が必要となります。

また、環境保全課事務所は、平成25年10月に沼ノ端清掃事務所へ移転することとなっています。

図表 3-216 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の避難所等無	救補完施設資	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震(判定)	非常電源設備	入浴設備
環境保全課事務所	昭和55年	32	511	×	×	×	1	A	×	×
沼ノ端清掃事務所	平成11年	13	1,107	×	×	○	2	A	×	○
糸井道路管理事務所	昭和47年	40	608	×	×	○	2	A	×	×
交通安全センター	昭和58年	29	393	×	×	×	2	A	×	×

凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-217 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
環境保全課事務所	S55	32	-	×	×	×	×	×	3	3	1	-	-	C
沼ノ端清掃事務所	H11	13	×	×	×	×	×	×	3	2	1	-	-	C
糸井道路管理事務所	S47	40	×	×	○	×	×	×	3	3	1	-	-	C
交通安全センター	S58	29	×	×	×	○	×	×	3	2	1	2	3	C

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- =不要・該当なし、

図表 3-218 施設総合評価パターン図

	パターンC バリアフリー	パターンC バリアフリー	パターンC バリアフリー
評価	・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設	・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設	・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設
評価	<p>優先_3</p> <p>振分基準 パターンA~B以外 でⅢ=1の施設</p>	<p>優先_3</p> <p>振分基準 パターンA~B以外 でⅢ=1の施設</p>	<p>優先_3</p> <p>振分基準 パターンA~B以外 でⅢ=1の施設</p>
該当施設	・交通安全センター	・環境保全課事務所 ・糸井道路管理事務所	・沼ノ端清掃事務所
コメント	・バリアフリー化が不十分な部分について整備が望まれます。	・バリアフリー化が不十分な部分について整備が望まれます。 ・環境保全課事務所は、平成25年10月に移転することが決まっています。	・築10年を超えており、バリアフリー化とともに、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。

④ 施設の利用状況

その他行政系施設の交通安全センターは、運転免許証の更新時講習など年間利用者が 2 万人となっています。

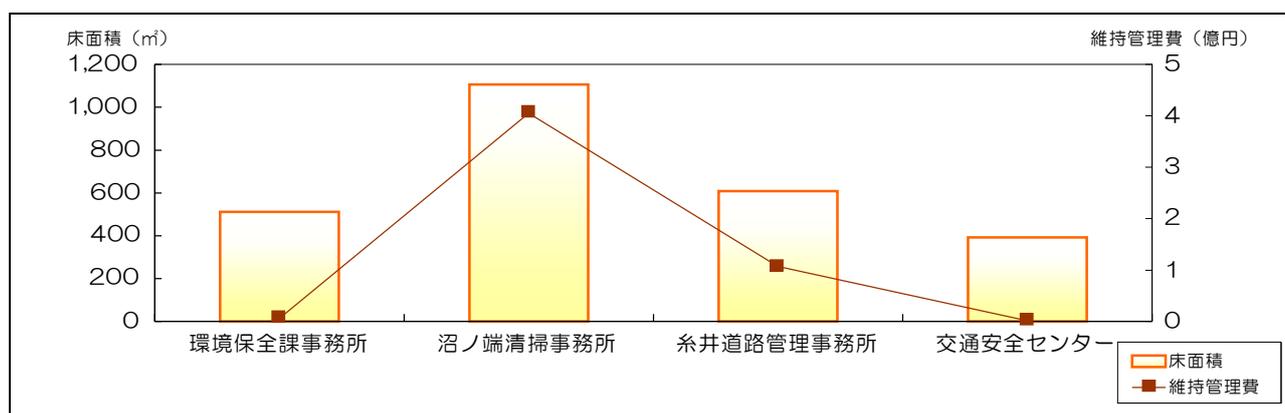
また、環境保全課事務所・沼ノ端清掃事務所・糸井道路管理事務所は、各所管部の事業を行っています。

⑤ 運営状況

その他行政系施設の平成24年度維持管理費は、5 億 2 千万円となっています。

そのうち沼ノ端清掃事務所が最も多く 4 億 500 万円で、次に糸井道路管理事務所の 1 億 700 万円となり、最も少ない交通安全センターは 162 万円となっています。

図表 3-219 施設床面積及び施設年間維持管理費



図表 3-220 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
環境保全課事務所	511	244	—	5,959	—	34
沼ノ端清掃事務所	1,107	256	—	405,147	—	2,323
糸井道路管理事務所	608	244	—	107,461	—	616
交通安全センター	393	245	20,268	1,620	80	9
合計	2,619		20,268	520,187		

⑥ 検討の視点

- ・市民生活に密着した業務であり、サービスの効率化が望めます。
- ・交通安全センターや糸井道路管理事務所等は、いずれも耐震診断 A 判定ですが、老朽化が進んでいることから大規模改修の時期にあわせて計画的な対応が望めます。
- ・津波浸水予想エリア外に立地している施設は、沼ノ端清掃事務所と糸井道路管理事務所の2施設です。
- ・沼ノ端清掃事務所には入浴設備が備わっています。
- ・交通安全センターは、多くの市民が利用する施設であり、津波対策やバリアフリー設備を考慮した整備計画が望めます。

4 主な施設の状況

(10) 公園（大分類）

1) 公園（中分類）

① 公園施設の概要

サンガーデンは、市民文化公園のカルチャーセンターとして、昭和63年に中央図書館に併設したガラス張りのしゃれた建物です。外観デザインは、大地を流れる水・波頭で輝く雪の結晶がイメージされており、館内は水・緑・太陽の三つのテーマにより滝から流れ出る「水」、「緑」豊かな樹木、総ガラス屋根から降り注ぐ「太陽」の光で演出されています。特に冬期間の緑を確保するため、「冬季に花が咲くもの」、「葉や花に香りのあるもの」、「名前はよく知られているが苫小牧地方で見ることが出来ないもの」が植栽されており、人々が冬季間でも気楽に集える憩いの場の提供を目的に設置しています。



サンガーデン

図表 3-221 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※ ¹ 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
サンガーデン	苫小牧市末広町3丁目1番15号	昭和63年	2,393	—	○	—	—

窓口機能^{※1}：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-222 施設配置図

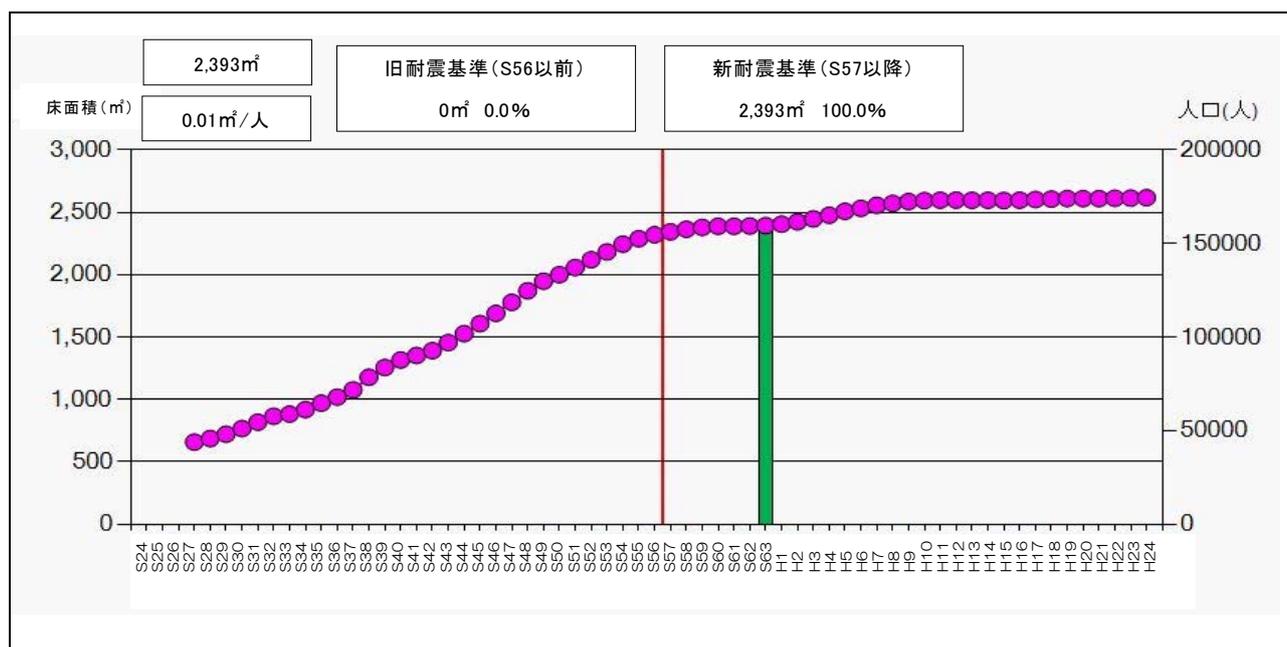


② 建設年度別整備状況

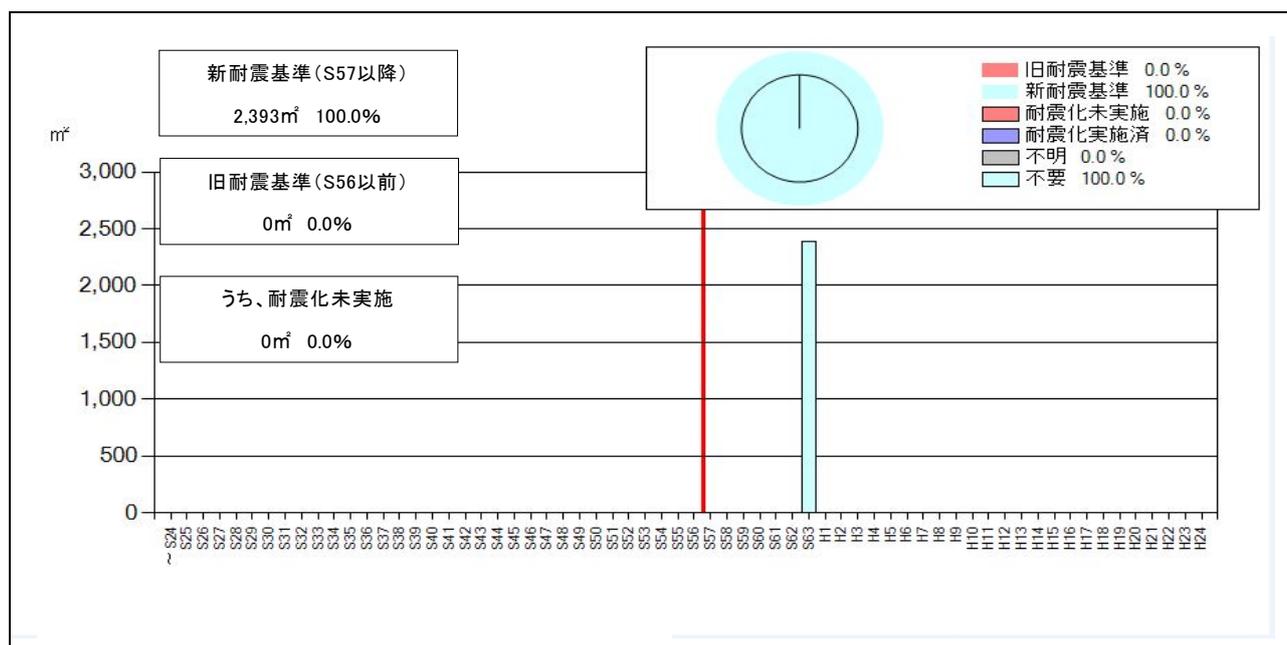
サンガーデンは、昭和63年に市民文化公園と一体化した施設として設置された新耐震基準の建物です。

施設の面積は、2千400㎡となっています。

図表 3-223 建設年度別整備状況



図表 3-224 耐震化状況



③ 施設総合評価

サンガーデンは、津波浸水予想エリア外に立地し避難所等には指定されていません。

サンガーデンは、緑豊かな市民文化公園の中に配置された図書館、美術博物館、総合体育館などの施設のひとつです。なお、施設は既に築24年を経過していることから老朽化対策やバリアフリー設備の整備が望まれます。

図表 3-225 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の避難所等	救護物資補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震診断(判定)	非常電源設備	入浴設備
サンガーデン	昭和63年	24	2,393	×	×	○	2	A	×	×

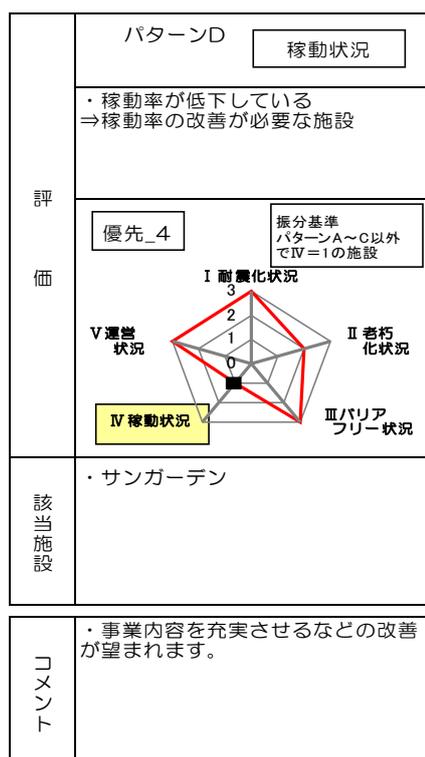
凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。
 (入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-226 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼動状況	V 運営状況	総合評価パターン
サンガーデン	S63	24	○	○	-	○	○	×	3	2	3	1	3	D

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- = 不要・該当なし、

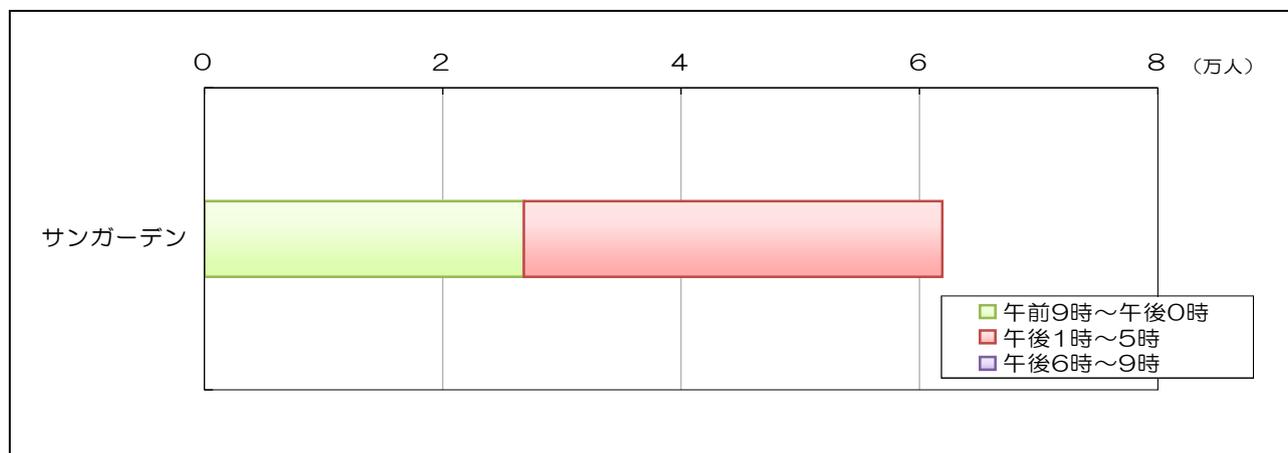
図表 3-227 施設総合評価パターン図



④ 施設の利用状況

サンガーデンの年間利用者数は6万2千人で、1日に210人が利用していることになります。

図表 3-228 施設時間帯別年間利用者数



⑤ 運営状況

サンガーデンの平成24年度維持管理費は3千万円で、利用者一人当りの維持管理費は500円となっています。

図表 3-229 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの維持管理費 (円)	市民一人当りの維持管理費 (円)
サンガーデン	2,393	295	61,920	29,978	484	172
合計	2,393		61,920	29,978		

⑥ 検討の視点

- ・昭和63年に中央図書館に併設した施設です。
- ・市民が気楽に集える憩いの場を提供しています。
- ・新耐震基準の建物で2千400㎡となっています。
- ・津波浸水予想エリア外に立地しています。
- ・築24年を経過し老朽化対策やバリアフリーの整備が望まれます。

4 主な施設の状況

(11) 供給処理施設（大分類）

1) 供給処理施設（中分類）

① 供給処理施設の概要

リサイクルプラザ苫小牧は、廃棄物の再利用及び再生利用並びに減量について、市民の意識の啓発を図るとともに市民による自主的活動の支援などを行い、資源循環型社会の形成に資するために設置しています。

また、沼ノ端クリーンセンターと糸井清掃センターは、廃棄物を適正に処理し、併せて生活環境を清潔にすることにより生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、市民の健康で快適な生活を確保することを目的として設置しています。



リサイクルプラザ苫小牧
沼ノ端クリーンセンター



糸井清掃センター

図表 3-230 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口 ^{※1} 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
リサイクルプラザ苫小牧	苫小牧市字沼ノ端2番地の25	平成11年	2,375	—	○	—	—
沼ノ端クリーンセンター	苫小牧市字沼ノ端2番地の25	平成11年	20,088	—	—	—	—
糸井清掃センター	苫小牧市字糸井402番地の4	昭和47年	4,802	—	—	—	—

窓口機能^{※1}：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-231 施設配置図



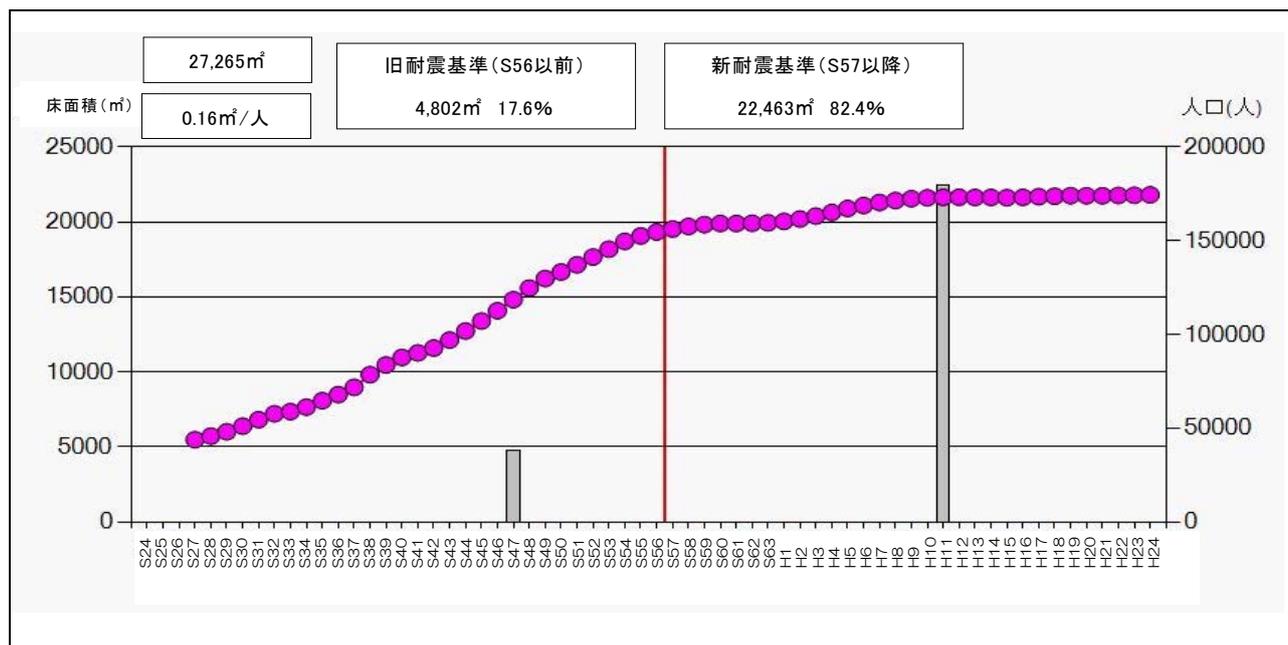
② 建設年度別整備状況

リサイクルプラザ苫小牧、沼ノ端クリーンセンター、糸井清掃センターの3施設の合計床面積は、2万7千㎡となっています。

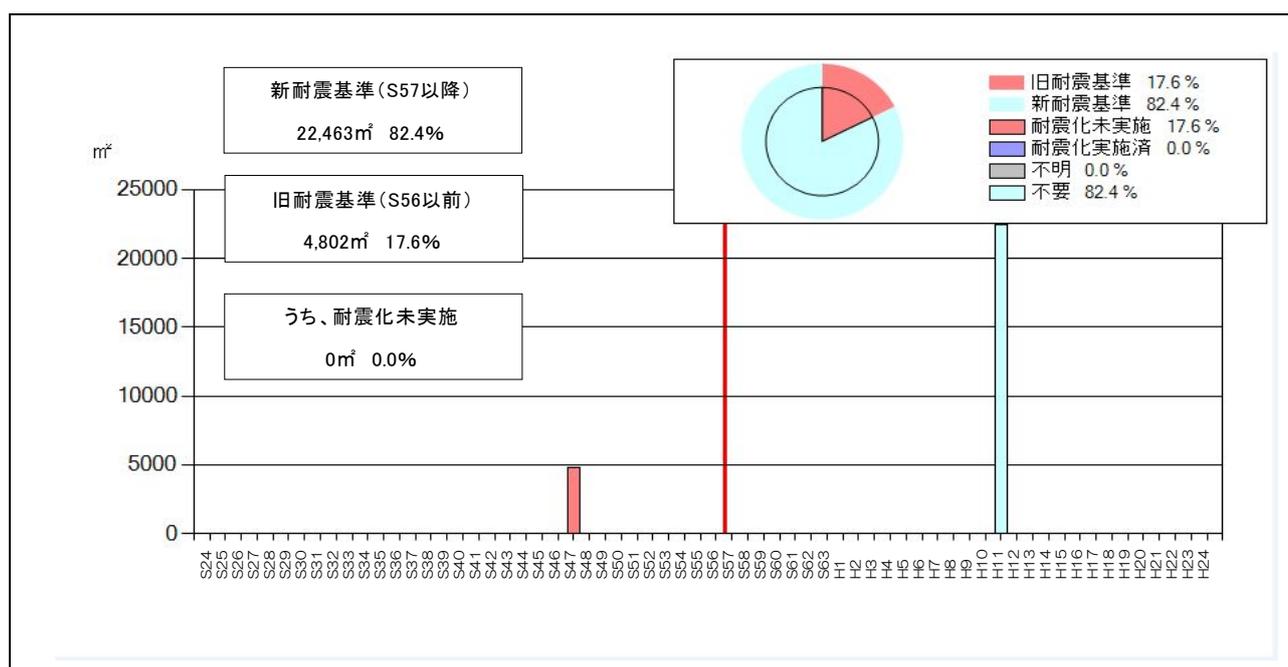
そのうち、旧耐震基準の糸井清掃センターは4千800㎡（18%）、新耐震基準のリサイクルプラザ苫小牧と沼ノ端クリーンセンターは2万2千500㎡（82%）となっています。

また、旧耐震基準施設の糸井清掃センターは、耐震診断が「未実施」となっています。

図表 3-232 建設年度別整備状況



図表 3-233 耐震化状況



③ 施設総合評価

リサイクルプラザ苫小牧、沼ノ端クリーンセンター、糸井清掃センターの3施設は、いずれも津波浸水予想エリア外に立地しており、リサイクルプラザ苫小牧を除く2施設は、非常電源設備及び入浴設備を備えています。

なお、避難所等には指定されていませんが、災害時には重要な施設となります。

また、糸井清掃センターは、旧耐震基準の施設で既に築40年が経過し、老朽化が進んでいることから計画的な対応策が必要となっています。

沼ノ端クリーンセンターは、平成11年に設置され築13年が経過し、毎日24時間運転を続けている特殊な施設で、一般施設の3倍の負荷があり、老朽化による大規模改修と長寿命化の対応策の策定が望まれます。

なお、平成25年7月ごみ有料化後の推移を見極めながら、糸井清掃センター及び沼ノ端クリーンセンターの今後の方向性や長寿命化事業の検討が必要になります。

図表 3-234 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の有無	救援補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震診断(判定)	非常電源設備	入浴設備
リサイクルプラザ苫小牧	平成11年	13	2,375	×	×	○	2	A	×	○
沼ノ端クリーンセンター	平成11年	13	20,088	×	×	○	5	A	○	○
糸井清掃センター	昭和47年	40	4,802	×	×	○	5	未	○	○

凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-235 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼動状況	V 運営状況	総合評価パターン
リサイクルプラザ苫小牧	H11	13	○	○	○	○	×	○	3	2	3	1	3	D
沼ノ端クリーンセンター	H11	13	○	○	○	○	×	×	3	3	2	-	-	C
糸井清掃センター	S47	40	×	×	×	×	×	×	1	3	1	-	-	A

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- =不要・該当なし、

図表 3-236 施設総合評価パターン図

	パターンA 耐震化	パターンC 稼働 運営	パターンD 稼働状況
評価	<p>・耐震安全性が確保されていない ⇒早急な耐震安全性の確保が必要な施設</p> <p>優先_1</p> <p>振分基準 I = 1の施設</p>	<p>・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設</p> <p>優先_4</p> <p>振分基準 パターンA～B以外で III = 2の施設</p>	<p>・稼働率が低下している ⇒今後、老朽化対策が必要な施設</p> <p>優先_4</p> <p>振分基準 パターンA～C以外 でIV = 1の施設</p>
該当施設	・糸井清掃センター	・沼ノ端クリーンセンター	・リサイクルプラザ苫小牧
コメント	<p>・耐震対策及びバリアフリー化の検討とともに、ごみの減量化を進めており、今後の推移を見極める必要があります。</p>	<p>・築13年を経過しており、バリアフリー化と老朽化対策を含めた改修計画が望まれます。 ・苫小牧市は広域処理協定により、厚真町、安平町の廃棄物も処理しています。</p>	<p>・不用品のリサイクルやごみ減量化のPRとともに、レジ袋の削減推進などの取組みを充実させるなどの検討が望まれます。</p>

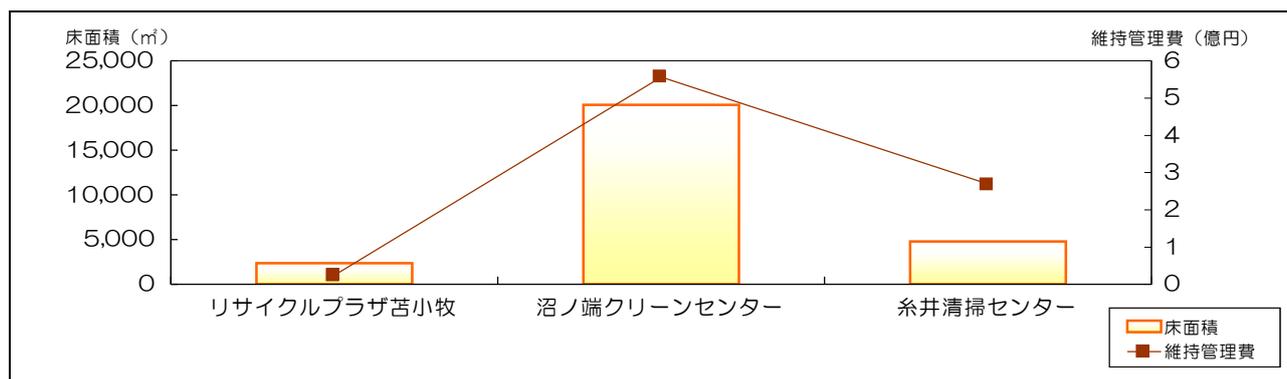
④ 施設の利用状況

沼ノ端クリーンセンター及び糸井清掃センターは、市民が排出する廃棄物（ごみ）を毎日完全に処理しています。

⑤ 運営状況

リサイクルプラザ苫小牧は、平成24年度維持管理費が2千400万円で、利用者一人当たりの維持管理費は1千円となっています。

図表 3-237 施設面積及び施設年間維持管理費



図表 3-238 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
リサイクルプラザ苫小牧	2,375	294	25,526	24,468	959	140
沼ノ端クリーンセンター	20,088	312	—	556,343	—	3,189
糸井清掃センター	4,802	260	—	269,350	—	1,544
合計	27,265		25,526	850,161		

⑥ 検討の視点

- ・リサイクルプラザ苫小牧は、廃棄物の再利用と減量について市民の意識の啓発を図り、資源循環型社会の形成に資するために設置しています。
- ・沼ノ端クリーンセンターと糸井清掃センターは、廃棄物を適正に処理し市民の健康で快適な生活を確保することを目的として設置しています。
- ・糸井清掃センターは、旧耐震基準の施設で既に築40年を経過し、老朽化が進んでいることから計画的な対応が必要となっています。
- ・リサイクルプラザ苫小牧及び沼ノ端クリーンセンターは、既に築13年を経過し老朽化による改修・長寿命化の対策が望まれます。
- ・3施設とも津波浸水予想エリア外に立地しています。
- ・3施設には入浴設備が備わっており、沼ノ端クリーンセンター、糸井清掃センターには非常電源設備が備わっています。
- ・清掃センターは、24時間連続運転を続ける特殊な施設で、一般施設の3倍の負荷が掛かり老朽化が進んでいます。
- ・ごみの減量化を進めており、今後の推移を見極める必要があります。

4 主な施設の状況

(12) その他（大分類）

1) その他（中分類）

① 高丘霊葬場施設の概要

高丘霊葬場は、本市における市民生活になくなくてはならない施設の一つとして、自然環境との調和を図りながら最新技術の粋を集めた近代的な建物で平成9年11月に建替えます。



高丘霊葬場

図表 3-239 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口 ^{※1} 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
高丘霊葬場	苫小牧市字高丘41番地の1	平成9年	2,573	—	○	—	—

窓口機能^{※1}：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

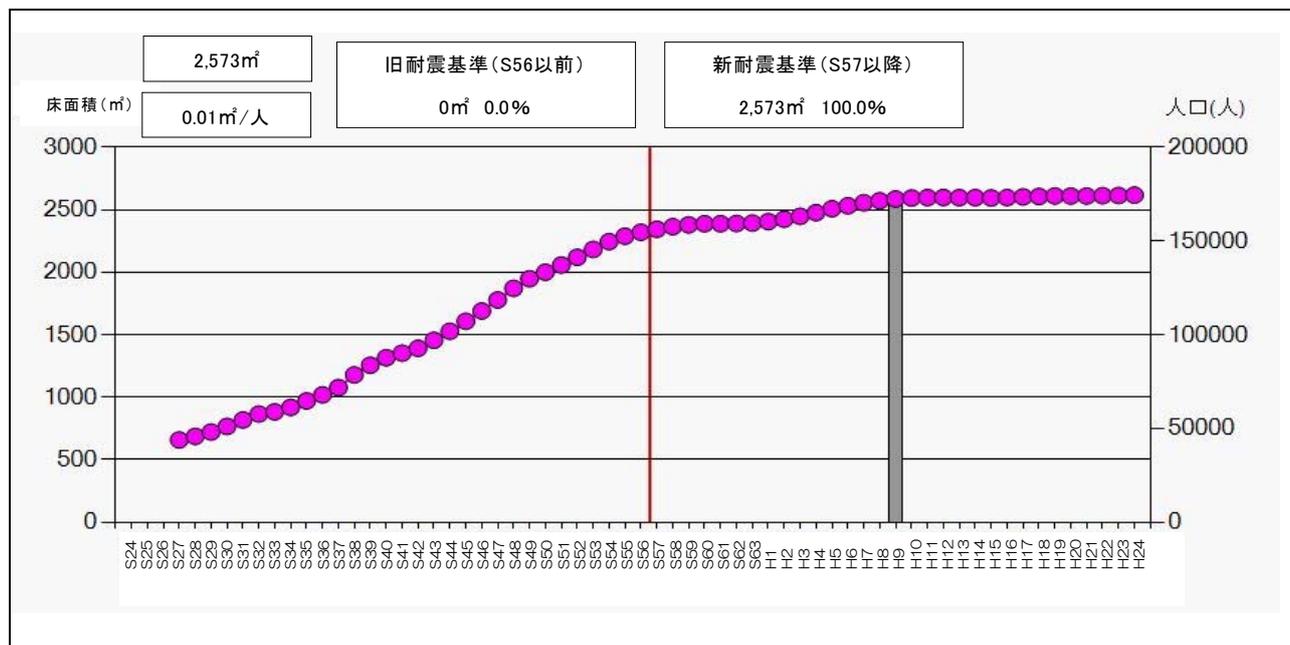
図表 3-240 施設配置図



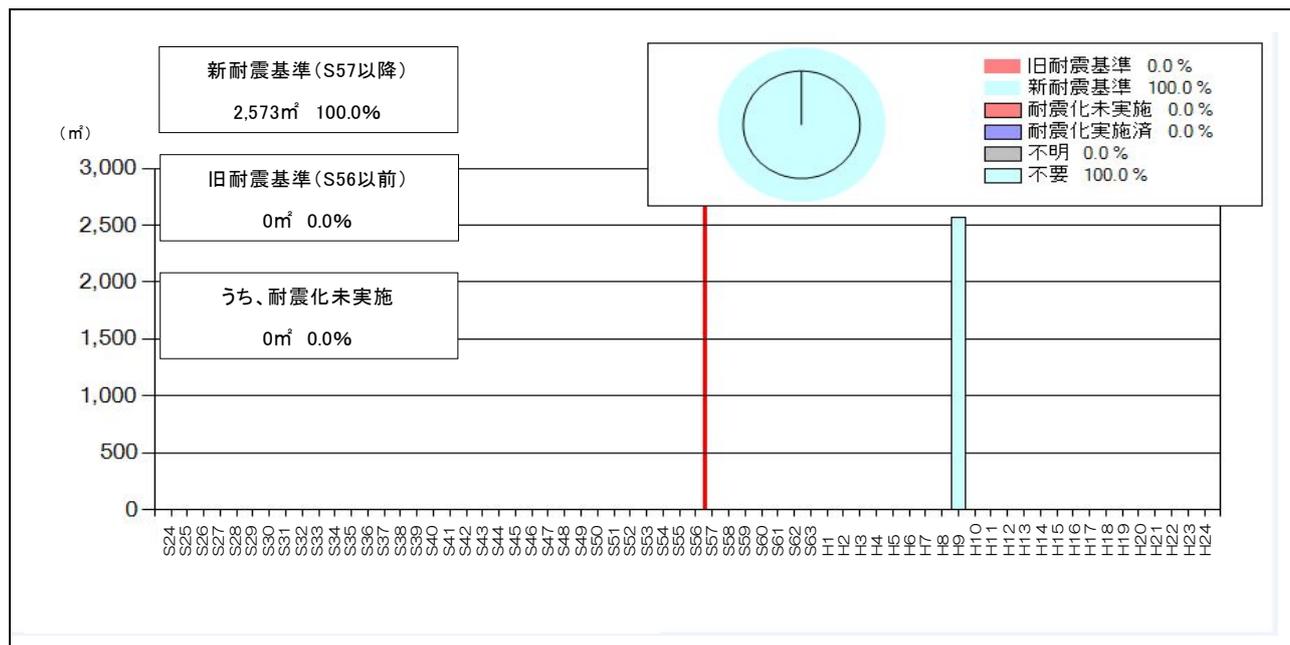
② 建設年度別整備状況

高丘霊葬場は、平成9年に建替られ床面積 2千600㎡の新耐震基準の施設となっています。

図表 3-241 建設年度別整備状況



図表 3-242 耐震化状況



③ 施設総合評価

高丘霊葬場は、津波浸水予想エリア外に立地しています。

また、避難所等には指定されていませんが、非常電源設備を備えています。

平成9年に建替られ耐久性と自然環境との調和に配慮した施設です。

また、設備は公害防止対策に留意した最新技術を集めた施設となっています。

しかし、築15年を経過しており建物や設備の老朽化や不具合により、使用できない状態にならないようバリアフリー設備と併せた整備計画が望まれます。

図表 3-243 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の避難の有無	救援補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震(判定)	非常電源設備	入浴設備
高丘霊葬場	平成9年	15	2,573	×	×	○	2	A	○	×

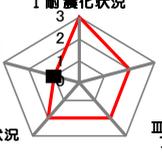
凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-244 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
高丘霊葬場	H9	15	×	○	○	○	○	×	3	2	2	2	1	D

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、—=不要・該当なし、

図表 3-245 施設総合評価パターン図

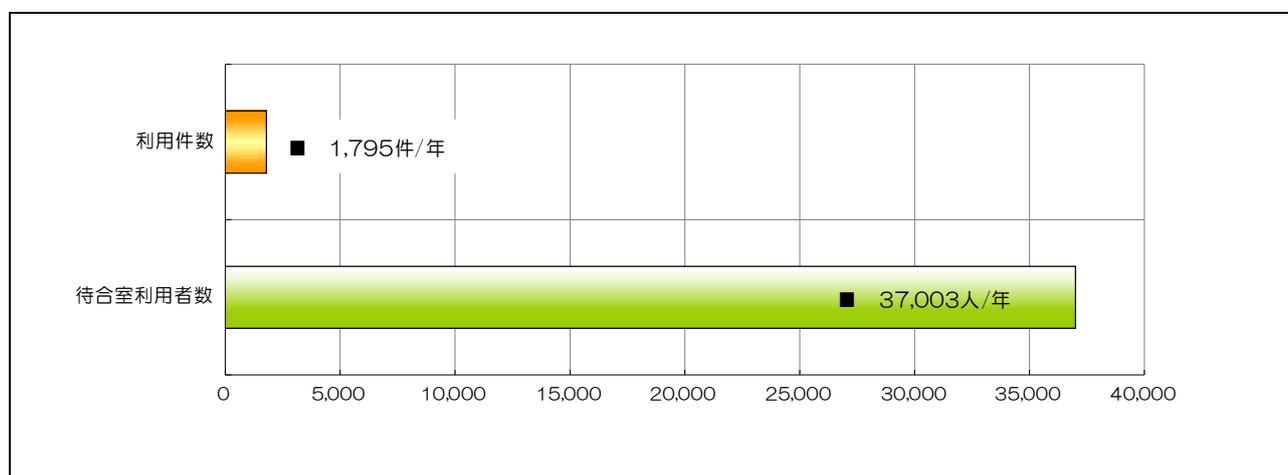
評 価	パターンD 運営状況 ・運営に問題が見られる ⇒早急な運営の改善が必要な施設
	優先_4 振分基準 パターンA～C以外 でV=1の施設 
当 該 施 設	・高丘霊葬場
コ メ ン ト	・施設管理の内容などについて改善が望まれます。

④ 施設の利用状況

高丘霊葬場の平成 24 年度の火葬件数は、1 千 800 件で控室の利用者が 3 万 7 千人となっています。

施設内は、7 基の設備があり保守管理上の運転サイクルにより 1 日当りの最大稼働回数は 13 回となっています。

図表 3-246 施設年間利用状況



⑤ 運営状況

高丘霊葬場は、指定管理者による運営で平成24年度年間維持管理費は5千万円で、1日当りの維持管理経費は16万円となります。

また、利用件数1回当たり2万6千円となります。

図表 3-247 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
高丘霊葬場	2,573	301	1,795	46,804	26,075	268
合計	2,573		1,795	46,804		

⑥ 検討の視点

- ・市民生活になくってはならない施設として平成9年に建替られています。
- ・築15年を経過し、老朽化対策とバリアフリー設備を併せた整備計画が望まれます。
- ・床面積は、2千600㎡となっています。
- ・津波浸水予想エリア外に立地しています。
- ・非常電源設備を備えています。

4 主な施設の状況

(12) その他（大分類）

1) その他・駅自由通路（中分類）

① 駅自由通路の概要

駅自由通路は、JR 改札口前を通過して鉄道線路を南北に往来する歩行者専用の跨線橋で、苫小牧駅及び沼ノ端駅に設置し地域住民や JR 利用者の通行の利便に供しています。



図表 3-248 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (m ²)	併設機能			
				窓口 ^{*1} 機能	貸室施設	図書施設	体育施設
苫小牧駅自由通路	苫小牧市表町6丁目4番3号	昭和57年	699	-	-	-	-
沼ノ端自由通路	苫小牧市北栄町1丁目105	平成19年	656	-	-	-	-

窓口機能^{*1}：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

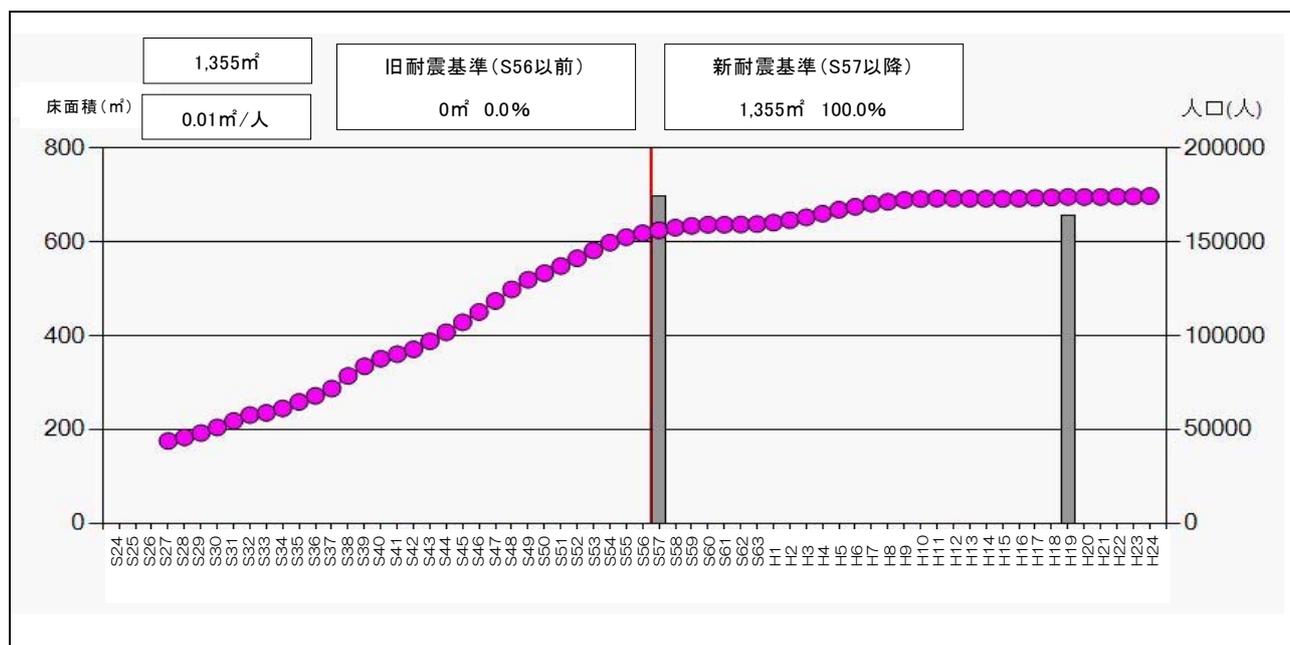
図表 3-249 施設配置図



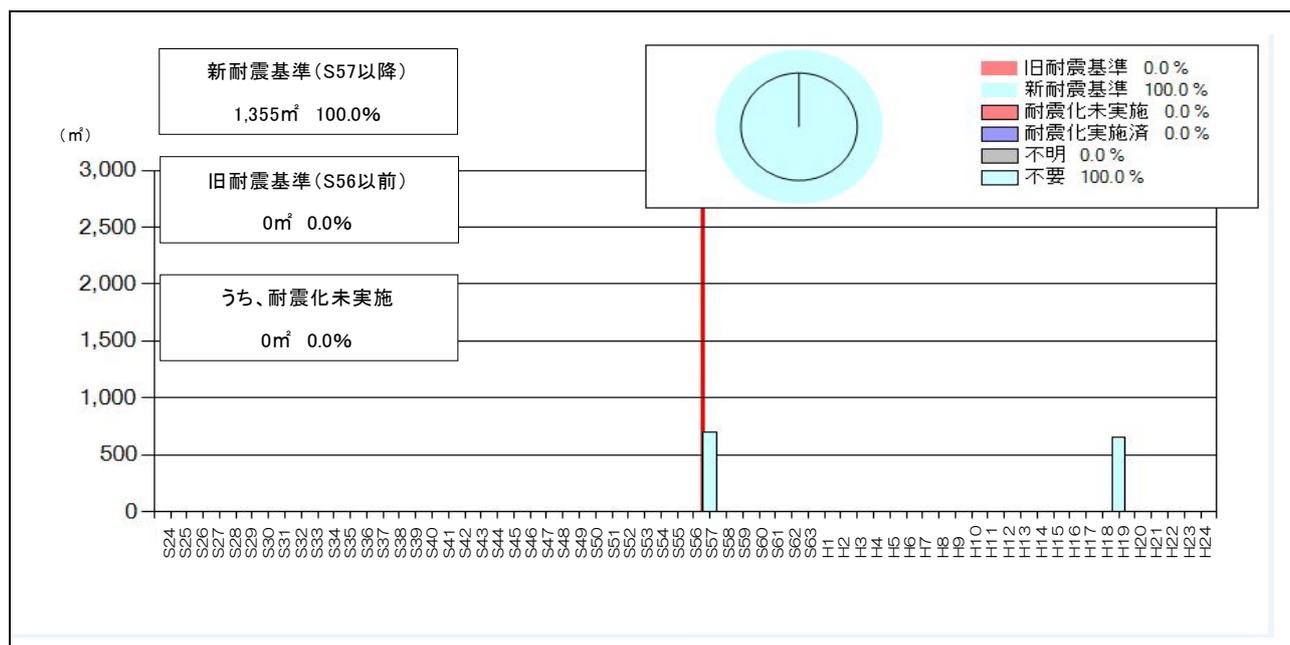
② 建設年度別整備状況

昭和57年設置の苫小牧駅自由通路及び平成19年設置の沼ノ端自由通路の2施設の合計床面積は、1千400㎡となっており両施設共に新耐震基準の施設です。

図表 3-250 建設年度別整備状況



図表 3-251 耐震化状況



③ 施設総合評価

苫小牧駅自由通路及び沼ノ端自由通路の2施設は、津波浸水予想エリア外に立地しています。

また、両施設ともに避難所等には指定されていませんが、市民の避難通路として利用される重要な施設です。

苫小牧駅及び沼ノ端駅の自由通路は、いずれも歩行者専用の跨線橋です。

なお、昭和57年に設置した苫小牧駅自由通路は、既に築30年が経過していることから老朽化やバリアフリー設備について計画的な整備が望まれます。

図表 3-252 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の避難所等無	救援補完施設	津波浸水予想	建物階数	耐震(判定)	非常電源設備	入浴設備
苫小牧駅自由通路	昭和57年	30	699	×	×	○	3	A	×	×
沼ノ端自由通路	平成19年	5	656	×	×	○	2	A	×	×

凡例：●＝一時避難所、■＝災害対策支部設置施設、○＝該当施設、×＝該当なし。
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-253 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
苫小牧駅自由通路	S57	30	○	○	×	○	○	○	3	3	3	—	—	—
沼ノ端自由通路	H19	5	○	○	○	×	○	○	3	3	3	—	—	—

バリアフリー記号：○＝対応、×＝未対応、—＝不要・該当なし、

図表 3-254 施設総合評価パターン図

評価	
	<p>当該施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苫小牧駅自由通路 ・ 沼ノ端自由通路
コメント	<p>・ 一般道路として利用しており、通行人の計測はしていないため稼働及び運営状況は表せません。</p>

④ 施設の利用状況

苫小牧駅自由通路及び沼ノ端自由通路は、地域住民が一般道路として利用するとともにJR利用者も利用していますが、通行人数の計測は行っていないため利用状況など表すことができません。

なお、JR 苫小牧駅のデータによると平成 24 年度は、137 万人の乗降客が利用したことから 1 日当たり 4 千人ほどの人が利用していることとなります。

⑤ 運営状況

苫小牧駅自由通路は、北海道旅客鉄道(株)及び苫小牧市が共同管理しています。
また、沼ノ端自由通路は、苫小牧市が維持管理を行っています。

図 3-255 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
苫小牧駅自由通路	699	365	—	12,262	—	70
沼ノ端自由通路	656	365	—	6,085	—	35
合計	1,355			18,347		

⑥ 検討の視点

- ・ 苫小牧駅自由通路は、地域住民の通行の利便に供するため昭和 57 年に設置しています。
- ・ 沼ノ端自由通路は、地域住民の通行の利便に供するため平成 19 年に設置しています。
- ・ 駅の自由通路 2 施設の合計床面積は 1 千 400 ㎡です。
- ・ 両施設は、新耐震基準の施設です。
- ・ 苫小牧駅自由通路は、既に築 30 年を経過し老朽化が進んでいます。
- ・ 両施設は、津波浸水予想エリア外に立地しています。
- ・ 両施設は、避難所等に指定されていませんが、市民の避難通路として利用される施設です。
- ・ 苫小牧駅自由通路は、北海道旅客鉄道(株)と苫小牧市が共同管理しています。
- ・ 沼ノ端自由通路は、苫小牧市が維持管理をしています。

4 主な施設の状況

(12) その他（大分類）

1) その他・卸売市場（中分類）

① 公設地方卸売市場の概要

水産共同作業場、公設地方卸売市場水産棟、公設地方卸売市場青果棟、公設地方卸売市場花き棟は、生鮮食料品などの取引の適正化とその健全な運営を確保し、もって生産及び流通の円滑化と市民等の生活の安定を図るため設置しています。



図表 3-256 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※1 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
水産共同作業場	苫小牧市汐見町2丁目8番3号	昭和44年	294	—	○	—	—
公設地方卸売市場水産棟	苫小牧市汐見町1丁目1番13号	昭和41年	2,689	—	○	—	—
公設地方卸売市場青果棟	苫小牧市港町2丁目2番2号	昭和46年	6,243	—	○	—	—
公設地方卸売市場花き棟	苫小牧市末広町2丁目1番1号	平成9年	1,701	—	○	—	—

窓口機能※1：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-257 施設配置図



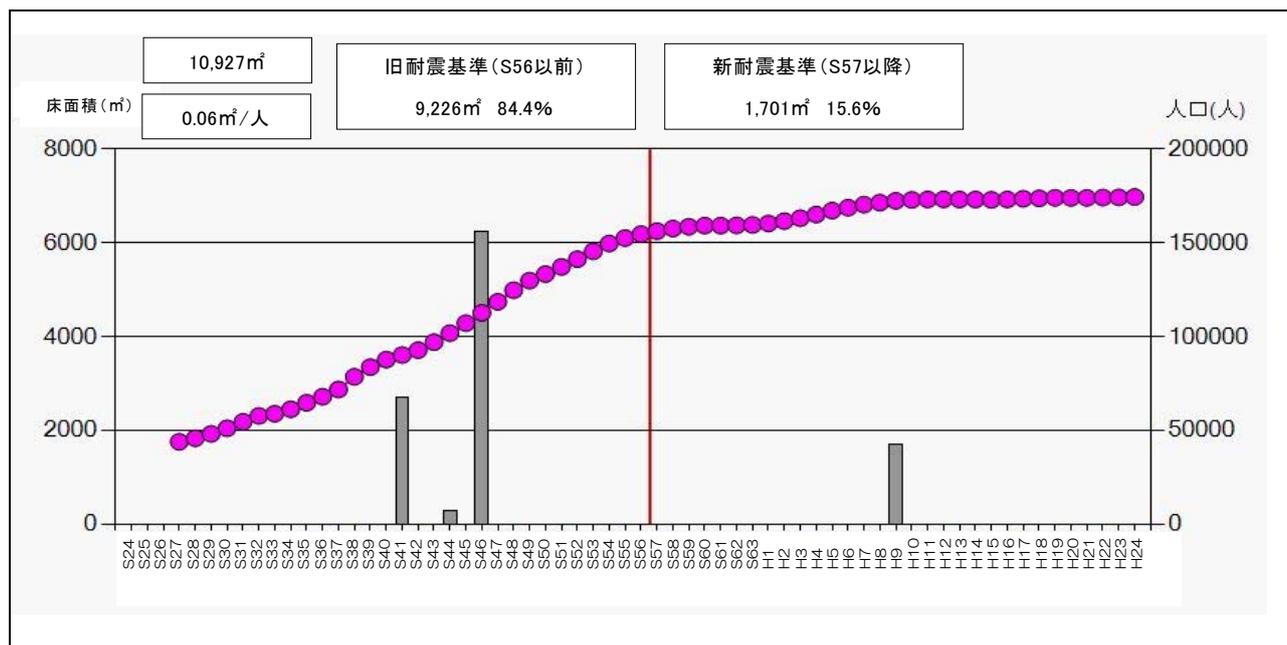
② 建設年度別整備状況

公設地方卸売市場等4施設の床面積は、合計1万1千㎡となっています。

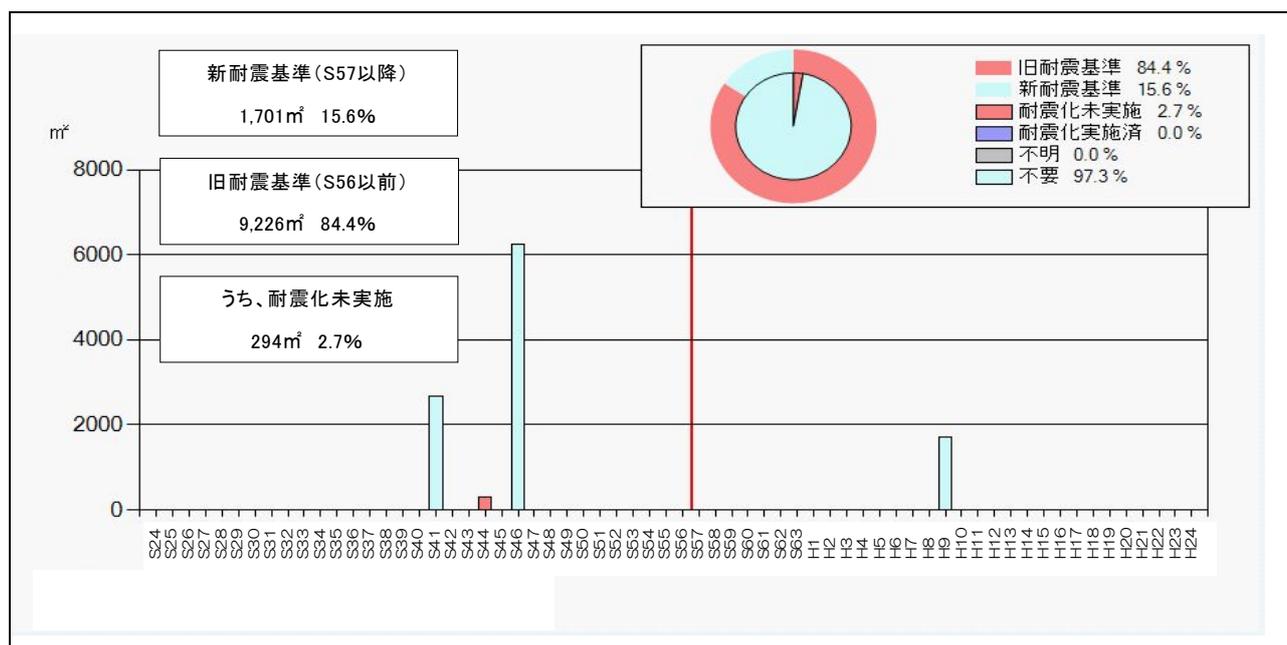
そのうち、旧耐震基準の建物は3施設9千200㎡(84%)、新耐震基準の建物は1施設1千700㎡(16%)となっています。

なお、水産共同作業場は、施設の老朽化により平成25年3月で閉鎖となっています。

図表 3-258 建設年度別整備状況



図表 3-259 耐震化状況



③ 施設総合評価

公設地方卸売市場水産棟、公設地方卸売市場青果棟、公設地方卸売市場花き棟の3施設は、津波浸水予想エリア外に立地していません。

また、避難所等にも指定されておらず、非常電源設備及び入浴設備は備えていません。

なお、公設地方卸売市場水産棟及び公設地方卸売市場青果棟は、築40年が経過し老朽化が進んでいることから、バリアフリー設備と併せた対応が必要となっています。

図表 3-260 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の避難所等有無	救援補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震診断(判定)	非常電源設備	入浴設備
水産共同作業場	昭和44年	43	294	×	×	×	5	B	×	×
公設地方卸売市場水産棟	昭和41年	46	2,689	×	×	×	2	A	×	×
公設地方卸売市場青果棟	昭和46年	41	6,243	×	×	×	2	A	×	×
公設地方卸売市場花き棟	平成9年	15	1,701	×	×	×	2	A	×	×

凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-261 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価バタイン
水産共同作業場	S44	43	×	×	×	×	×	×	2	2	1	-	-	C
公設地方卸売市場水産棟	S41	46	×	×	×	×	×	×	3	2	1	-	-	C
公設地方卸売市場青果棟	S46	41	×	×	×	×	×	×	3	2	1	-	-	C
公設地方卸売市場花き棟	H9	15	×	×	×	×	×	×	3	2	1	-	-	C

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- =不要・該当なし、

図表 3-262 施設総合評価パターン図

	パターンC バリアフリー	パターンC バリアフリー
評 価	・バリアフリー化が不十分 ⇒今後、バリアフリーが不十分な部分の整備が望まれる施設	・バリアフリー化が不十分 ⇒今後、バリアフリーが不十分な部分の整備が望まれる施設
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>優先_3</p> <p>振分基準 パターンA～B以外 でⅢ=1の施設</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>優先_3</p> <p>振分基準 パターンA～B以外 でⅢ=1の施設</p> </div>
当該施設	・水産共同作業場	<ul style="list-style-type: none"> ・公設地方卸売市場水産棟 ・公設地方卸売市場青果棟 ・公設地方卸売市場花き棟
コ メ ン ト	・平成25年3月で閉鎖しました。	・水産棟及び青果棟は築40年、花き棟は築10年を超えており、バリアフリー化とともに、大規模改修の検討が必要になっています。

④ 施設の利用状況

各公設地方卸売市場の取扱品目は、水産部の鮮魚・塩干物・冷凍品・水産加工品等が1万7千トン、青果部の野菜・果物・農産加工物等が1万4千トン、花き部の切花・鉢物・花木類等が840万本余りを1市7町※1に供給しています。

※1 1市7町：苫小牧市、白老町、安平町、厚真町、むかわ町、日高町、平取町、新冠町

⑤ 運営状況

公設地方卸売市場水産棟、公設地方卸売市場青果棟、公設地方卸売市場花き棟の平成24年度維持管理費は1億2千万円で、3施設の1日当たりの平均維持管理費は15万円となっています。

図表 3-263 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (m ²)	開館日数 (年間)	維持管理費 (千円)	利用者 (買受人)			取扱高に対する維持管理費の比率 (%)	市民一人当たりの維持管理費 (円)
				買受人 (人)	取扱量 (トン)	取扱高 (千円)		
水産共同作業場	294	365	—	—	—	—	—	
公設地方卸売市場水産棟	2,689	273	24,752	106	17,162	7,575,077	0.3%	142
公設地方卸売市場青果棟	6,243	274	58,248	83	14,049	3,116,516	1.9%	334
公設地方卸売市場花き棟	1,701	254	37,561	111	(839万本)	590,315	6.4%	215
合計	10,927	—	120,561	300	31,211トン 839万本	11,281,908	1.1%	691

⑥ 検討の視点

- ・公設地方卸売市場水産棟、青果棟及び花き棟は、生鮮食料品等の取引の適正化と流通の円滑化や市民生活の安定を図るため設置しています。
- ・公設地方卸売市場の水産棟及び青果棟は、旧耐震基準で9千㎡、花き棟は、新耐震基準で2千㎡となっています。
- ・旧耐震基準の2施設は、築40年を経過しており老朽化が進んでいます。
- ・全ての施設は、津波浸水予想エリア外に立地していなく、避難所等にも指定されていません。
- ・水産共同作業場は、平成25年3月で廃止となっています。